

前橋市教育委員会との意見交換

検討会委員長・手島メモ

1、経緯及び趣旨

○市長の諮問により、「前橋空襲を語り継ぎ、平和資料を収集展示する形の検討会」が発足し、令和元年（2019）11月26日から活動を開始。令和3年3月2日に、公的な資料館を設置することを求める提言書を提出した。

○提言書を受け、市当局で検討の結果、「市民文化会館」（昌賢学園ホール）内に「前橋空襲と復興資料館（仮称）」を開設することになった。

○本年度、展示内容などについて検討する「前橋空襲と復興資料館検討委員会」が発足し、勉強会、先進地視察などを行いながら、提言書の具現化を進めている。

○提言書の具現化の大きな柱のひとつに、学校教育との連携がある。

○香川県高松市は、香川県の県庁所在地で昭和20年7月4日に空爆に遭い、死者 1,356 人を出した。平成7年（1995）7月に戦後50年の節目として、高松市民文化センター（昭和47年開館）1階に「平和記念室」を開設した。同館が老朽化・耐震性で問題が生じると、同館を解体し、平成28年（2016）に「こども未来館」を新築し、その5階に「平和記念館」をリニューアル開設した。このような経緯を持つ香川県の県都高松は、前橋市にとって参考となる事例であると認め、8月26日に視察を行った。

○高松市平和記念館では平和学習の機能を重視し、主に次のような取り組みを行っていた。

①市内小学校四年生を対象にしたカリキュラムに組み込んだ学習。来館したときの講師は退職した小学校長が務めていた。②来館小学生向けの教材の用意、③教職員を対象にした学習会など。

○そこで、「前橋空襲と復興資料館」が開設したときに、①小学生（中学生でも）平和学習（同館へ見学に来る）をカリキュラムに組み入れる。②教材をつくる。③教職員向け学習会などができないか―意見交換するものである。

2、意見交換の主な事項

- ① これまでの教育活動における「前橋空襲」の扱い
- ② 「前橋空襲と復興資料館」ができたときの平和学習の連携